

早稲田大学大学院 プロロジス寄附講座に 代表の梅村が登壇しました

～物流・ロジスティクス業界の人材育成および業界の創造的な進化をサポート～

2024年6月22日（土）、早稲田大学大学院の講座で、NEXT Logistics Japan（株）代表の梅村が講義を行いました。

同講座は、物流・ロジスティクス業界の人材育成および業界の創造的な進化をサポートすることを目的としてプロロジスが提供を開始し、今年で18回目を迎えます。履修生には、物流業界以外からの参加者も多く、講義後には、鋭い質問が活発に出されました。その様子を一部ご報告します。



1. 6月22日の講義の概要

- ・講座名：2024年度早稲田大学大学院経営管理研究科 プロロジス寄附講座「ロジスティクス・SCM」
- ・講義タイトル：皆で運ぶ、物流の未来 – NEXT Logistics Japanの挑戦 – （100分）
- ・講義内容：「物流2024年問題」の本質と、2018年に設立以来、日本を代表する企業と共に物流の社会課題解決に向けて取り組んできたNLJの取組みについて紹介

2. 主な質問

Q.運ぶものの組み合わせはどうやってOKかNGかを判断しているのか？

A. 本当にNGかどうかを実際に検証しています。例えば、シャンプーは匂いがトラック内に残ると思われるかもしれませんが、臭気測定器を使って調べた結果、積み替えの際にトラックを開けると、匂いが消えることがわかりました。このようにして、一つ一つの組み合わせの合理性を現場で確認すること、これが我々のビジネスの本質でもあります。

Q.サプライチェーン全体の情報を繋げることができれば、NeLOSSの使用範囲が広がるのでは？ さらに、将来的には世界で使えるのでは？

A. 流通、メーカー、倉庫の各セクターがデータ化に取り組んでいますが、それだけでは不十分です。データを連携することが重要で、これは「フィジカルインターネット」とも呼ばれ、分断されないよう、共通化・標準化することが必須です。海外展開についても、視野に入れています。

Q. NLJがNeLOSSを外販する意図は、「物流の社会課題を解決し、物流の生産性を向上させ、その向上分をドライバーの給与に還元すること」だったとしても、実際に導入した企業がその思いを理解してくれるとは限らないと思うが？

A. 現在、NLJと協業している企業は、物流業界を良くしていきたいという共通の思いを持った方々。今後も同じ思いを持つ方々と共に取り組んでいきたいと考えています。一方で、ドライバー不足が深刻な中、ドライバーの給与を上げなければ人材を確保できないため、そうではない企業は今後厳しくなるのではないかと思います。

<取材申し込み・問い合わせ先>

NEXT Logistics Japan 株式会社 経営企画・管理Div. info@next-logistics-jp.jp

TEL：03-6911-1691